

おもちゃが子どものジェンダー観に与える影響

平林百葉

子どもの価値観は、普段の生活の中での身近な大人の発言や行動を観察し、模倣することにより幼少期の比較的早い段階から形成されていく。それが、幼少期から様々な要因によって植え付けられていることにより、ジェンダーバイアスによる差別や排除の風潮が社会から消えないという悪循環が起こっている。

そこで本論文は、子どもが遊ぶ「おもちゃ」に焦点を当て、おもちゃとジェンダーに関する調査と分析を行い、幼少期に関わるどのような要素が子どものジェンダー観の形成に影響を与えているのかを検討した。

筆者が行ったおもちゃとジェンダーに関するアンケートからは、おもちゃの性別別販売や、きょうだい構成、親のおもちゃの選択が、子どもの後のジェンダー観に大きな影響を与えていることが明らかになった。

今後は、おもちゃのマーケティング戦略的な面を考慮しつつ、売り場の性別別販売の廃止や、広告モデルの性別の配慮、商品の色やデザインの多様化など、ジェンダースtereotypeを感じさせる要素の見直しを進める必要がある。性別に縛られないジェンダーレスなおもちゃの開発で子どもの自由な選択肢を増やすことが望ましい。